



笑顔いっぱい大北小 みんなで育つ大北小

大北小だより

2月号

平成29年2月1日

練馬区立大泉北小学校

校長 内木 勉

<http://www.ooizumi-n-e.nerima-tky.ed.jp/>

思いを伝える

校長 内木 勉

1月27日・28日に開催いたしました展覧会に、2日間合わせて約1000名の方々にご来場いただき、心より御礼申し上げます。今回の展覧会のテーマは『思いやひらめき大切に たくさんステキを見つけよう!』。たくさんの方々にステキを見つけていただけたのではないかと考えています。

展覧会に向けて、図工の学習の中で、子供たち一人一人の思いやひらめきを大切に制作を進めました。「思いを形にする」、言葉にすれば簡単ですが、これを実現していくことは、とても難しいことです。試行錯誤する中で、子供たちは自分の思いを見つけていきます。そして、その思いを今度は形にするために、さらに試行錯誤を繰り返していきます。この作業の中で新たなひらめきが生まれ、自分なりの色合いや形を見つけていきます。こうした作業の中から生まれた作品は、子供たちにとって「たくさんステキ」が詰まった宝物なのです。

大北小では、展覧会に際して思いを伝える2つの取組をおこなっています。1つめの取組はペア鑑賞です。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生が、それぞれ兄弟学級でペアを組み、鑑賞の時間に自分の作品を説明し合うというものです。1年生が6年生の手を引っ張り、自分の作品の所まで連れて行き、そして本当に一生懸命、自分の作品の説明をしていました。この時の表情は、大事な大事な宝物をこっそり見せてあげるような、どこか誇らしげな素敵な表情なのです。ここにも展覧会のステキがありました。

2つめの取組は6年生の学芸員活動です。28日の保護者鑑賞日に、6年生各学級が1時間ずつ学芸員を担当しました。学芸員は来場された保護者や地域の方々に、担当となった学年の作品の解説をおこないます。そのために6年生は、作品のテーマや制作の過程、苦労したところやがんばったところなどを、担当した学年の先生方や子供たちに取材し、準備を進めてきました。自分の作品ではありませんが、取材の中で見つけた各学年の思いやひらめき、自分が感じたたくさんのステキを伝えたいという思いが伝わってくるものでした。6年生の子供たちは、学芸員活動を通して、思いを伝える難しさとともに、思いが伝わった時の喜びを味わうことができたのではないかと考えています。来場された方々を待つ6年生の緊張した表情。勇気をふりしぼって声をかける時の表情。自分の思いを伝える一生懸命な姿。解説した方が「ありがとう」と言ってくれた時の本当に眩しいくらい笑顔。ここにも展覧会のステキを見つけたことができました。

展覧会に際しまして、材料の準備等、保護者の皆様にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。展覧会にご来場いただきました皆様が、たくさんのステキと出会っていただけたならば幸いです。大泉北小学校では、これからもさまざまな教育活動を通して「思いを形にすること」「思いを伝えること」に取り組んでいきます。教職員一丸となり、子供たち一人一人の思いやひらめきを大切にに取り組んでいきたいと考えています。

2月行事予定表

◎今月の生活目標:時間を守って集まろう

チャイムの合図を守ろう けじめのある生活をしよう やくそくをまもろう

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 節分集会 新1年保護者会	4
5	6 全校朝会 委員会⑩	7 5年橋戸田んぼの 収穫祭	8 けやき班集会	9 安全指導	10	11 建国記念の日
12	13 全校朝会 クラブ⑬ クラブ見学3 年	14	15 合唱団発表集会 4時間授業 (教育会研究発 表会のため)	16	17 B時程 5年パラリンピ ック講演	18
19	20 全校朝会 クラブ⑭	21 4年音楽発表会	22 音楽朝会 (6年生を送る 会の歌)	23 6年生を送る会 (3校時)	24 6年小中一貫教 育乗り入れ授業 保護者会56年 14:50~	25
26	27 全校朝会 クラブ⑮最終	28	3/1 クラブ発表集会	3/2 B時程 感謝の集い 14:30~	3/3	3/4

※2月の避難訓練は予告なしで実施いたします。

「6年生を送る会について」特別活動主任 伊藤 裕樹

2月23日(木)の中休みから3校時にかけて6年生を送る会が行われます。お世話になった6年生にお礼とお祝いの気持ちをこめて1~5年生が行う会です。6年生はこれまでの学校生活を振り返りながら、各学年の発表を見て、楽しい時間を過ごします。入場時には6年生と1年生が手をつないで入場します。司会は代表委員の5年生を中心に行うので、学校の顔でもある現6年生と次年度の6年生がバトンタッチをする会とも言えるでしょう。

この味……

副校長 大野 正人

早朝、ラジオを聞いていると、高知の方が「今より平均気温が少し高くなると四国では温州みかんを栽培できなくなる」と話していました。目には見えないので気づきませんが、そこまで温暖化が進んでいたのか、という思いでした。そのせいではないのですが、みかんもいろいろな品種が店頭に並んでいます。年月が経って、手に入りづらくなった温州みかんを口にした時に「この味、昔食べたな～」と思うのでしょうか。

先日、給食でつみれ汁が出た時、この味、昔食べたな～と思いました。栄養士に聞くと、鰹節とつみれからの出汁とのこと。顆粒や出汁入りでは出せない味です。大北小の給食は、調理員さんが出汁をしっかり取って汁物を調理しています。食べている子供たちは、その味を記憶することでしょう。そして、手間をかけた味に出会った時、この味～と思い出してくれると思います。